

篠原ユキオ

1948年 東大阪市生まれ
京都教育大美術科卒
京都精華大学名誉教授
(公社)日本漫画家協会参与
FECCO JAPAN 会長



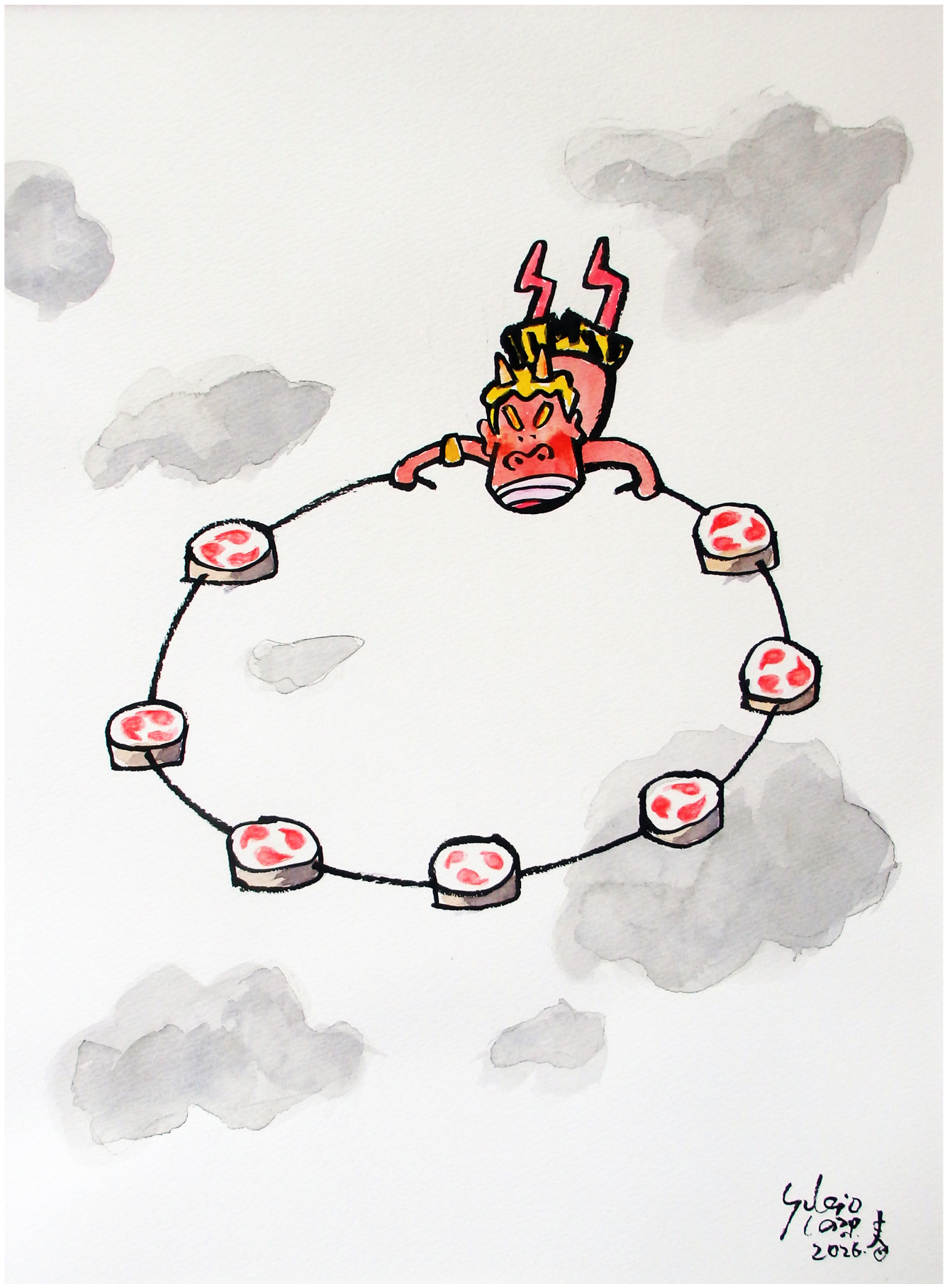
ある日雲の上から

常人には手の届かない存在を『雲の上の人』と言うが雲の上には何も無い。しかし海外の1コマ漫画の世界では『神さま漫画』というカテゴリーが昔からあって、白い雲の上を舞台にした作品が多く描かれている。

日本の絵巻物にもしばしば天上の世界として極楽浄土が描かれたものを多く見る事ができるが、これは多くが仏教の教えを人々に伝える使命もあつたからだろう。カミナリ様の姿は風神雷神図屏風に描かれた姿がよく知られているが、1コマ漫画ではあまり見かけない。

私は2018年に日本漫画家協会賞の大賞を受賞した作品集の中に電球の中で雷神がフィラメント状の縄を手に縄飛びしている作品があつてそれ以後カミナリをモチーフにしたモノを描く事が多くなった。

近年、季節を問わず頻繁に発せられる落雷予報が気になるが、わたしの頭にもしばしばカミナリ漫画が落ちて来る。



雷神と鬼と

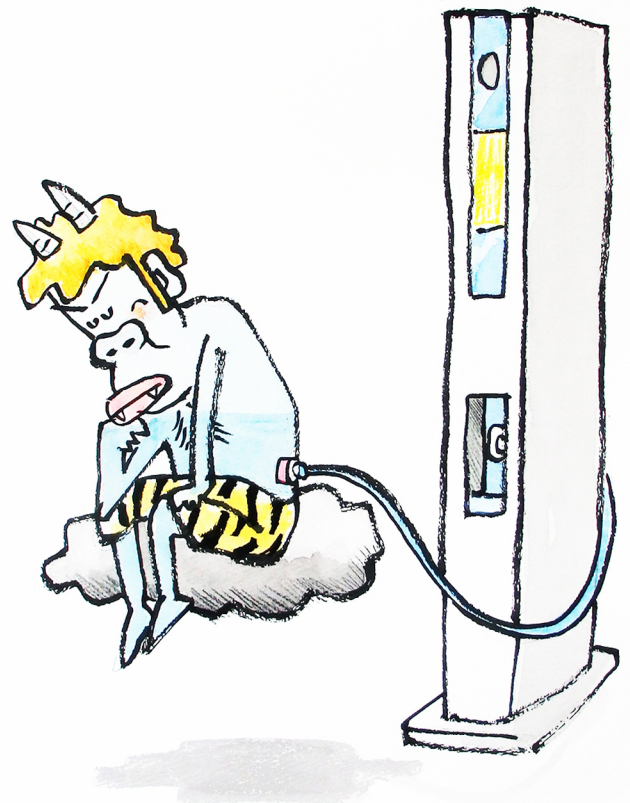
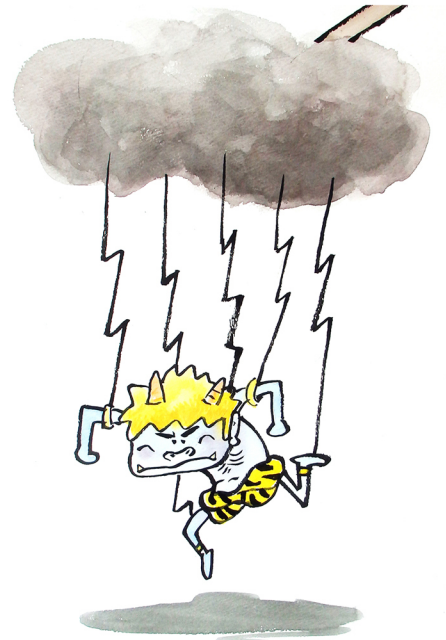
近年、カミナリの映像を目にする事が多くなった。

昔と違ってスマホが万人に行き渡った現代では落雷の瞬間も瞬時にネットに上がってくる。

雷神がオニの姿をしているのは普通になっているが、もともと雷神と鬼は別物で雷神は神、鬼は邪悪な魔物という明確な違いがある。しかし現代ではその区別があいまいになっている。

そもそも神と悪魔と一緒にしてしまうという事が恐ろしい事なのではないかと思ったりする。

それこそ雷神さまからカミナリを落とされそうだと思うんだけどね。



ヨーロッパが率先して進められている脱炭素の動きは日本ではまだまだ鈍いように感じるが、私の愛車は本国ではすでに生産が終了していて日本でもガソリン車の新車は売られていない。馴染みのディーラーのショールームには今は電気自動車しか並んでいない。日本の電気自動車への移行が緩やかなのは充電スポットの少なさや各家庭に充電設備を設置しないとイケない面倒さもあるのだろうが、あっという間に給油できるガソリン車に比べると充電時間の長さも足を引っ張っているような気がする。

タイパ、コスパを優先して考える若い世代は未来にどういう選択をするのだろうか。



炎上!

モバイルバッテリーの発火事故が多発するようになって様々な場所への持ち込みが規制されるようになってきている。本来は充電のための道具なのに、充電中に発火する事自体、商品としてあり得ない。

今やリチウム電池は身の周りの多くの電気製品に使われているのだからすべてを管理するのは不可能だろう。

火を噴くのは大抵が安価な海外のメーカーのモノだがそれらが規制されずに通販サイトなどで流通している事には恐怖さえ感じる。

もし、某国が陰謀を画策し、日本国中に販売されたモバイルバッテリーを一齐に発火するように設定したりしたら第2の東京大空襲になるのでは…などという妄想が浮かぶ。